

Eureka XI

六年制通信 No.28 令和5年12月8日(金)号

行くに徑に由らず (ゆくにこみちによらず)

子どもの時に間違っ覚えてしまって、それに気づかず大人になってしまった。しかも知らないまま使ってしまったて恥をかいた、そんな言葉が私にもたくさんあります。これは思い込みや調べなかったことが原因でしょうが、私、何とこの年になって初めて知った「間違い」があります。もう半世紀以上も間違っ使っていたわけですが…。祖母が背の高い人を「うわずえのある人」と言っていたのをそのまま覚えてしまって、ろくに調べもしないまま使っていたのです。ところが先日、辞書で「上背」と書いて「うわぜい」と読むことを知って驚きました。思い込んでいたせいでしょうか、相撲中継でも解説者が背の高い力士のことを「〇〇は、うわずえがありますからね」と言っていたと思うのですが、そう聞こえていただけなのでしょうね。こわっ。そう言えば、ドン・キホーテなんか、皆さん、初めて耳にしたときドンキ・ホーテだと思いませんでしたか。耳だけで覚えると、とんだ誤解をしたままになってしましますね。

正しい意味を知らずに使っていた日本語もたくさんありました。「舟を編む」という映画で編集者が「無然」の意味を質すシーンがあります。本来の意味は驚きや失望などで表情をなくすことですが、それが今では不機嫌な様子にも使われ出したとのこと。私も本来の意味を知りませんでした。その他、よく間違えそうな語句を調べてみましょう。「割愛」も単に省略するくらいの意味で使われていますが、我が愛用の『新明解国語辞典』によれば本来は「手放すには惜しいものを手放すこと」です。確かに漢字を見れば、なるほどですけれどね。「潮時」も「そろそろ終える時、撤退する時」だけに使っていますが、これも本来は違います。「物事を始めるのに適した時、終えるのに適した時」に使うのですが、私たちは普通物事を始めるときには使わなくなりましたね。

「辛党」も最近では激辛料理が流行っていることもあってか、単純に甘党との比較か「辛い食べ物を好む人」と思っている人がいますが、これも間違い。本当は「お酒を好んで飲む人」です。「甘党」には甘いものを好むだけでなく酒が飲めないという意味も入っています。「役不足」は、よく話題にされていますが、割り当てられた役目が軽すぎるという意味ですね。逆に使う人がいますが、それは間違い。「気のおけない」も「気を使わなくていい」という意味ですが、逆にとっている人がいます。「気のおけない人」と言えば「油断できない人」だと思うのですね。まだまだあります。「話のさわりの「さわりの」を「はじめの部分」と思っている人がいますが、これは「要点」のこと。「さわりのだけ聞かせてよ」と言えば「要点を言ってくれ」の意。「うがった見方」もよく間違っ使われています。「うがっ(穿つ)」は「人情の機微や事の真相を的確に

指摘する」ことですが、何か深読みをするとか疑いの目を向けるとか、そんな意味で使う人が多いようです。「馬子にも衣裳」を「孫にも衣裳」と勘違いしていたなどというのは笑い話ですが、「情けは人の為ならず」は間違っ用いると誤解が生じますから注意が必要です。「斜に構える」というのも「しゃ」は「ななめ」のことですから、素直でない感じがします。世の中を皮肉に見る意味だと感じる人が多いようですが、本来は刀を斜めにして構えることで、何かに対し十分な身構えをする、改まった態度をとることを言います。本来の意味で使う人はもういないかもしれませんね。

私は長い間「学問に王道なし」を誤解していました。これ、英語では **There is no royal road to learning.** で、**royal road** を「王道」と訳すから王様が進む「唯一の正しい道」だと思っていたのです。まさか「近道」のことだとは思いませんでした。王様だから一般の人が通れないような抜け道でも通れる、そういうことらしい。ですから「学問に近道はない」という意味なのですね。私は宣長の言うように、学びの方法はどうでもよくて、つまり唯一の方法などなくて、ただ長く続けることが大切だと、そんな意味に解していました。で、最近『ポケット論語』にいい言葉があるのを見つけたので紹介します。文庫本 p.107 の「行くに徑に由らず」です。「徑」は「近道」です。頼りとする人物かどうかの見極めに「行くに徑に由らず」、つまり、近道をしない人は信用できるということ。確かに近道（ズルいことなんかね）をする人間は信用できないものね。

今週のおすすめ

・三枝理枝子 『心が3℃温まる本当にあった物語』 (PHP文庫)

何かにイライラしている人、これ読んだら落ち着きますよ。人のやさしさ、心づかい、丁寧な気働き、奉仕の心、それらはほんの少しの勇気があれば行動に移すことができ、それに触れた人の心を温める。そんな物語が 26 話紹介されています。「出迎え三歩、見送り七歩」なんて言葉も初めて知りました。なるほど、派手にお出迎えされても用事がすんだら知らん顔、これではいけないということですね。心すべきことです。

26 話の中から君たちに一つだけ紹介しておきましょう。どうも六年制の学校らしいのですが、体育祭で中 1 から高 3 まで順番に走るクラス対抗リレーがあるのです。これが一番盛り上がるし、皆が楽しみにしていると。うちもやりましたよね。ところが C 組のアンカーに足の遅いぼっちゃり & いじられキャラの男子が立候補したらしい。どうなっているのかと。負け、決定ではないかと。この子は、しかし、朝も昼休みもトラックをはだして走るようになりました。それでも高 3 の C 組が真面目にアンカーを選んでいないという評判が立ちます。そして体育祭当日、C 組のバトンは 2 位でアンカーに渡され、そのままの順位でゴールイン。彼は抜かれなかったわけです。事故でリハビリを続ける妹が車椅子で見守る中のゴールでした。妹に頑張る姿を見せたいと、彼はクラスみんなに涙ながらに頼んだそうです。そういう彼の願いをクラスみんなが聞いたわけです。彼を胴上げして C 組は大盛り上がりだったというお話。クラスみんなも偉いけど、彼の勇気が素晴らしいね。なかなか言えないと思いますよ。

BGM は いきものがかり の ラストシーン でした…。